



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第8回)



財団法人兵庫県高等学校野球連盟



第93回全国高等学校野球選手権大会は全国で4,000試合を越える熱戦が繰り広げられましたが、残念ながら『高校野球特別規則』に関して指導者の理解不足が目立ちました。今回はその特集です。

●高校野球は一般に「ルール・ブック」と呼ばれる『公認野球規則』と『アマチュア野球内規』および『高校野球特別規則』に従って行われています。特に『高校野球特別規則』は教育の一環としての高校野球そのものです。道具や服装、正式試合成立や延長の回数、ラフ・プレイを生まない正しい規則の解釈など全26項に示されています。この夏に話題となった疑問を二つの事例で確認しましょう。

【事例1】 あるチームが特定の投手と野手を打者ごとに繰り返し交代させています。いったん一塁の守備についた投手が、今度は左翼手と代わり、そこから再び投手に戻っても問題ないのでしょうか？

失策	位置	先攻	背番	1	2	3
	7	鈴木	7			
	3	吉田	13	II		
				K		
	5	伊藤	5			
	3	渡辺	3			
	7	"	"			
	1	"	"			
	1	佐藤	1			
	3	"	"			
	7	"	"			
	7	"	"			
	3	小林	3			

2回 1死 打者 4番のとき
投手・佐藤 → 一塁手へ

2回 2死 打者 5番のとき
一塁手・佐藤 → 左翼手へ
左翼手・鈴木 → 一塁手へ

2回 2死 打者 6番のとき
左翼手・佐藤 → 再び投手へ
投手・渡辺 → 左翼手へ

2回 2死 打者 7番のとき
左翼手・渡辺 → 投手へ
投手・佐藤 → 左翼手へ

規則3-03【原注】前段のうち「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできない」とありますが、高校野球特別規則ではこれを適用せず、次のケースでそのイニングを終えることは認めています。(【第4項】)

- ・「**投手** → 野手 → 野手 → **投手**」
- ・「**投手** → 野手 → 野手」

つまり事例のように、同一イニングの中で投手が一塁の守備につき、さらに左翼の守備位置についた後、**再び投手に戻っても問題ありません**。

ただし【原注】は続いて、「投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」としているので、「**投手** → 野手 → **投手** → 野手」や、「**投手** → 野手 → 野手

→ **投手** → 野手」というような交代は認められません。野手から再び投手に戻ったなら、その後は**そのイニングを投げ終わるか、交代してベンチへ下がるしかありません**。

たとえば上のスコアットのように、先発投手の佐藤君は、野手を経て相手の6番打者の時に再び投手に戻っているため、次打者を迎えて渡辺君に代わり左翼の守備につくことは**明らかに規則違反です**。このような事態を未然に防げなかったことも残念でした。

【事例2】 負傷した打者が治療中、臨時代走が出ました。次打者の安打で進塁し、その臨時代走の選手が代走を告げられましたが、このあと治療を終えた「もとの選手」はどうなるのですか？

臨時代走は特別規則の中でも古くから定められています。審判の判断、両チームの理解と合意で実行されてきました。臨時代走者は試合に出場している選手に限られ、チームから指名はできません。**臨時代走者に別の代走を出せば、負傷治療中の選手が交代することになります**。

規則適用について、投手と捕手を除く打撃完了直後の選手を起用することは認識されていると思われます。ただ、投手と捕手の打順が続いている場合は、臨時代走者が次打者や次次打者になることも考えられ、さらに走者を代えることも必要です。

規則3-04には「打順表に記載されているプレーヤーは、他のプレーヤーの代走をすることは許されない」とありますが、高校野球では、その【原注】に記されるコーティシーランナー (**相手の好意で適宜に許される代走者**) **を認める特別規則**なのです。(【第6項】)

今回の事例で示す高校野球特別規則があるのは、時には少ない登録人数で試合に臨む場合もあるという高校野球の現状にも配慮した規定なのです。お互いの理解と全員の支え合い、まさに“F”精神によって定められているのです。